

日本と韓国のスポーツ記事

～バンクーバーオリンピックでの浅田真央とキム・ヨナから～

The sports articles in Japan and Korea

～Mao Asada and Yuna KIM in Vancouver 2010 Winter Olympics～

1K08B029-3 岩城 優子

指導教員 主査 リー・トンプソン 副査 松岡 宏高

【目的】

本論文の目的は、日本と韓国のスポーツ記事の表現の違いを解明し、その表現の違いから日本と韓国のスポーツに求めるものや消費者に与える影響を考える。

筆者は、以前 2000 年度の全日本フィギュアスケート選手権と 2010 年度全日本フィギュアスケート選手権のテレビ放送を見比べ、放送時間や演出の違いを解明した。メディアの影響もありフィギュアスケートは人気のスポーツになったことを実感した。そこで、日本と外国ではスポーツの報道はどのように違うのか興味を持った。外国の中でも、キム・ヨナ選手がいる韓国に注目し、2010 バンクーバーオリンピックでの浅田真央選手と韓国のキム・ヨナ選手が、日本と韓国ではスポーツ記事の表現はどのように異なっているのかを解明する。

【方法】

第一章では、日本と韓国のフィギュアスケートへの関心の高さをバンクーバーオリンピックの視聴率や選手の知名度、選手人口を調査する。第二章では、日本の新聞として、朝日新聞データベース閲蔵を使いバンクーバーオリンピックが開催されていた 2010 年 2 月 1 日から 2010 年 2 月 28 日の記事の中で「浅田真央」と「キム・ヨナ」でそれぞれキーワード検索を行う。韓国の新聞では、中央日報で同様の方法でそれぞれの選手の記事を探索する。そこから、記事の内容を①選手の詳細、曲・衣装・技などの競技解説②今までのライバル関係（今までの試合結果や演技内容を含む）③日本・韓国それぞれの応援④海外での報道⑤母・コーチなど⑥選手のコメント⑦他への影響・他選手への影響⑧結果とそれに対する表現⑨選手や専門家の解説⑩その他の 10 個のグループに分け記事の違いを調査する。第三章で記事の調査から日本と韓国のスポーツ記事の違いから、国民に与える影響や国民がスポーツに求めているものの違いを分析していく。

【結果】

朝日新聞では「浅田真央」の記事数は 86 件、「キム・ヨナ」の記事数は 48 件であった。中央日報では「浅田真央」が 40 件、「キム・ヨナ」が 98 件に上った。

10 個のグループ分けの中で、差が表れたのは②今までのライバル関係④海外の報道⑤母・コーチ⑧選手や専門家の解説であった。今までのライバル関係では韓国の記事の多く見受けられた。特に違いが表れたのは③海外の報道である。韓国はキム・ヨナが日本でもアメリカでもヨーロッパでも非常に注目されていて、優勝候補であることを何度も強調していた。日本は⑤母・コーチの記事と⑨選手・専門家の解説が韓国に比べ多く、特に外人コーチについての注目があり、韓国はフィギュアスケートの注目選手がキム・ヨナだけに対し、日本は安藤美姫や高橋大輔のような世界トップクラスの選手が多く、外人コーチが多いことや専門家の分析が多い傾向があることが明らかとなった。

【考察】

日本でも韓国でも浅田真央、キム・ヨナの注目度は非常に高い。しかし、同じフィギュアスケートの記事であっても、注目する点や選手に対する表現の違いが表れた。特に韓国は海外メディアに韓国選手はどう表現されているかということにこだわる傾向があり、選手のことよりもその他への影響の強さを強調しているように感じた。日本の記事では、コーチや家族など選手を支える周りの記事が多い傾向があり、選手がどのように成長したのか、選手生活のドラマに注目していることが分かる。

今回日本と韓国の新聞記事を比べたが、両国ともフィギュアスケートの浅田真央とキム・ヨナのライバル関係にとっても注目していた。日韓関係の表現も少しは見られたが、互いにエールを送り、選手の健闘を表現していた。先行研究で書籍「日本はライバルか～コリアン・アスリートからのメッセージ～」を調査したが、その書籍であった日韓の重い歴史や激しいライバル関係の表現はバンクーバーオリンピックの記事では一つもなく、日韓関係がよりよくなっていることをスポーツ記事からも感じ取ることが出来た。日本・韓国とスポーツに対して結果を求めることは同じだが、その記事の表現の違いから、日本人が求めるスポーツの美学と韓国人が求めるスポーツの美学の違いがあることが解明された。